

限られた財源で
最大の効果を



町長 浅妻茂一郎

国、地方の行財政をとりまく環境は極めて厳しく、とりわけ財政運営の危機はまことに深刻です。政府の昭和五十九年度予算は、五十兆二、二七二億一、四〇〇万円で伸率〇・五%と三十年ぶりの超緊縮予算となっています。地方財政計画でも、交付税が三・九%の減となっています。

このように国家予算ならびに地方財源に期待を寄せられません。そこで、事業を厳選すると共に、国庫の補助を受けられる事業を積極的に導入したい考えです。また補助金、地方債などの財源確保に努め財政負担の軽減を図ります。黒埼町の昭和五十九年度予算編成にあたっては、国家予算、地方財政計画の大すじに沿って歳出を抑え、三・三%の低い伸びの緊縮型予算としました。

しかし、行政サービスの向上をはかるため、町民の行政に対する要望に留意しながら、町政の充実前進を期して、限られた財源を重

点的効率的に配分し、行政効果の向上に努める次第です。

八十年代は日本海時代の幕明けといわれ、本町にとりましても高速交通時代を迎え、新潟流通センターの充実、トラックターミナルの開業、新潟西バイパスの着工、さらには住宅供給公社による住宅団地の建設など大きな変化と発展が期待される年代です。

今後のまちづくりとして、土地の有効利用、道路などの都市機能について具体的に都市計画事業を検討し、町制施行十周年をステップとした飛躍的發展への基礎づくりを進めていきます。

町政執掌の基本姿勢としては、これまで同様に基本的人権の尊重を基本理念に、「誠実と融和」「対話の町政」をモットーにします。住民の意向を適格にはあくし、住民とともに知恵を出し合って「健康で文化的な活力ある豊かな明るい町」実現に向かいます。

以上の考えを基調に(1)生活環境の整備充実、(2)農商工業の調和のとれた産業基盤の確立、(3)教育、文化、スポーツ施設の整備充実と青少年の健全育成、(4)住民福祉の増進と健康づくりの4つの柱を町政推進の重点施策として、財源の重点的かつ効率的配分を行った次第です。

三月議会町長施政方針演説から

町史編さん いよいよスタート

総務費 10億4,351万9千円

本年度からいよいよ町史編さん事業がスタートします。予算は90万円です。コンサルタントに委託し、町の将来構想をたてます。地域住民から要望の強い北陸自動車道鳥原バス停用の駐車場を建設します。交通安全施設はガードレール、カーブミラー、道路標識を設置します。

- ・特別職(三役)給料 1,740万2千円
- ・教育長給料 459万6千円
- ・職員給料(206人分) 4億6,577万1千円
- ・職員手当など 2億6,525万6千円
- ・共済費 1億5,588万4千円
- ・町長交際費 250万円
- ・町史編さん費 89万5千円
- ・広報くろさき印刷費 440万5千円
- ・町の将来構想策定委託料 450万円
- ・交通安全施設工事費 426万円
- ・鳥原バス停駐車場用地取得費 1,215万円
- ・工事費 870万円
- ・地方鉄道近代化設備整備費補助金 214万3千円
- ・自治会長委託料 680万4千円
- ・戸籍住宅民基本台帳費 198万2千円
- ・町長、農業委員選挙費 145万1千円
- ・各種統計調査費 193万5千円

町道改良に2億3400万円

都市下水路に1億7360万円

土木費 5億4,554万3千円

道路改良、舗装は計画的に実施していきます。新規補助事業としては、鳥原、寺地線のバイパス、金巻小平方線の特改4種事業を予定しています。継続では都市計画街路小針線、県営事業として主要地方道新潟燕線及び小平西部農免道路、新潟西バイパスについても積極的に推進します。

都市下水路は国の財政が厳しいため、事業量の伸びは期待できませんが函渠工事を継続していきます。町単独では下記の排水路整備事業を行います。

河川敷公園は今年度も継続します。昨年度から実施しました私道助成も継続します。

- ・道路や橋の維持管理など 3,380万6千円
- ・町道改良工事費 2億3,400万円 (改良予定路線)
 - 寺地9号線、寺地駅前線、山田1号線、立仏7号線、立仏9号線、柳作13号線、柳作6、14号線、善久6号線、善久16号線、鳥原5号線、寺地善久線、大野鳥原新地線、大野5号線、鳥原新地鳴巻線、金巻10号線、金巻8号線、黒鳥中道線、黒鳥11号線、黒鳥寺地線、鳥原10号線、木場小学校脇線 (以上22か所約2,220m)
- (舗装予定路線)
 - 北場小新線、旧焼却場線、山田保育所線、善久2号線、鳥原5、8号線、中学校脇2号線、高速側道5号線、黒鳥緒立線、木場瀉端線、金巻小平方線、寺地善久線、大明団地2号線、高速側道3号線 (13か所約2,542m)
- (橋梁)
 - 消防署前線、高速道運搬道路線
- (交通安全施設)
 - 鳥原寺地線 (2か所)、裏堤防線、大野町裏線、高速側道4号線 (5か所約868m)
- ・町道拡幅用地買収費 5,250万円
- ・県道改良工事負担金 1,000万円
- ・都市下水路費 1億7,360万3千円 (大野1号幹線築造工事 1億2,656万円)
 - 寺地下江、寺地下下江、小沼下江、大野下江、柳作下江、奥野下江、木場排水路 4,200万円
- ・信濃川河川敷公園工事費 2,000万円



都市下水路



町史編さん室

環境改善 センター に着手

農林水産業費 2億9,682万1千円

- ・農業委員会費 1,006万3千円
- ・農用地高度利用促進事業費 221万4千円
- ・新農業構造改善事業費 8,957万円 (ライスセンター補助金 3,021万円) (土地基盤整備補助金 5,530万円)
- ・農業振興費 824万9千円
- ・水田利用再編対策費 1,208万9千円
- ・農地費 5,369万7千円
- ・農村総合モデル事業費 1億1,738万8千円

米の生産調整、米価の抑制など農業情勢が一段と厳しい中、国庫の補助事業を積極的に導入します。農村総合整備事業では、いよいよ環境改善センターの建設に着手します。完成は61年度の予定です。

新農業構造改善事業では、黒鳥と板井北部に土地基盤整備、ライスセンターなどの共同利用施設を計画しました。

水田利用再編対策は本年度から第3期に入り、目標面積は206.5ヘクタールでこの達成のため農業委員会、農協、農家組合の協力を得たいと思っております。達成農家へは町単独の助成措置があります。

さらに、新しい農村のあり方、中核農家集団の形成、農村コミュニティ施設、生産組織の育成などを積極的に推進していきます。



環境改善センター完成予想図。図書館の隣に今年度から3か年事業で建設。ステージ付き多目的ホール、集會室、農事研修室、保健室、調理室などを備える。建物延べ面積1,279㎡ 61年秋に完成予定

人間ドック検診を 補助

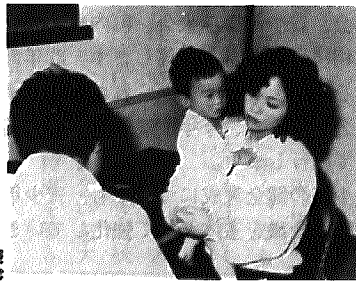
衛生費 2億3,584万3千円

昨年度事業で完成した一般廃棄物最終処分場は、4月から利用する計画です。自治会で実施する防疫薬剤の散布機、草刈機購入費の助成、薬剤費の補助、家庭下排水側溝改善事業の助成を行います。

公害対策として、高速道路、新幹線の騒音防止対策は関係機関と連携を密にし本年度も引き続いて対策を講じます。さらに地域住民から要望の強い畜産公害は地域開発との関連で解決を目指します。

町民の健康づくりのために、総合検診成人病対策、各種予防接種、母子栄養強化事業、各種検診事業を実施し、人間ドック検診を補助します。

- ・老人保健特別会計繰出金 3,669万5千円
- ・国民健康保険特別会計繰出金 500万円
- ・各種検診など予防費 1,289万2千円
- ・母子衛生費 1,304万7千円
- ・防疫用薬品購入費補助金 267万円
- ・ごみ収集委託料 4,110万円
- ・最終処分場管理委託料 606万円
- ・新潟地区広域清掃事務組合負担金 1億222万3千円



検診